技術委員会報告

理事・技術委員長　谷川　力

はじめに

この原稿を作っている最中(10月下旬)新型コロナウイルス感染症は、第5波が終息を迎えようとしている。発刊となる本機関誌1月には第6波が来ないことを祈りながらの原稿作成である。前回に続き、委員会は2021年6月、8月、10月にいずれもZOOMによるオンライン会議で行った。出席者は毎回ではないが、清水一郎会長、元木貢副会長、安居院宣昭顧問、小松謙之技術副委員長(シーアイシー)、木村悟朗(イカリ消毒)、佐々木健(アペックス産業)、芝生圭吾(鵬図商事)、峯岸利充(国際衛生)、森義之(三共消毒)、渡邊賢太郎(帝装化成)、そして谷川が参加した。

以下、最後の10月25日の会議を中心にトピックをまとめた。

1. ヒアリ駆除について

環境省案件のヒアリ対策については、コンテナヤード内の生息調査と駆除を行った(写真1～3)。ヒアリの調査では羽蟻の発見、職蟻の活動確認などモグラたたき状態に陥っている。コンテナヤードは入る時間帯が早朝、もしくはお昼休みに限られた短時間で効率よく行わなければならない。清水会長も日程・薬剤や人員の調整で苦労されている。

私見ではあるが、ヒアリはすでに定着しており、その対策を検討する段階と考えても良い(写真4)。IGR剤の効果は実証済みであり、他の系統の異なる薬剤も加えて「ヒアリ発見→

写真1　誘引餌によるヒアリ調査

写真2　誘引餌上のヒアリ
＜撮影：佐々木健＞

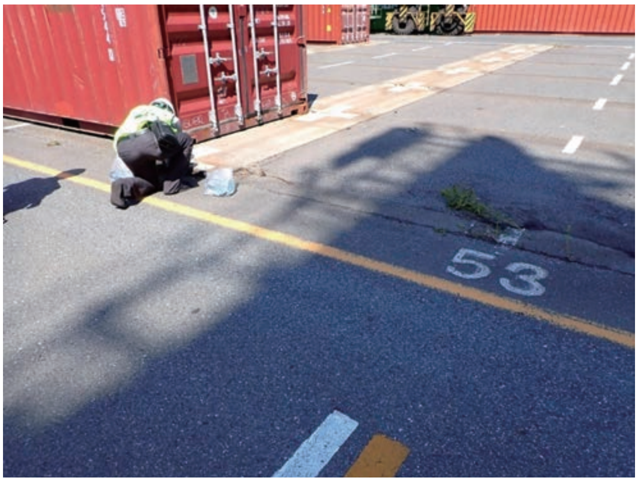

写真3　目視によるヒアリ確認

写真4　ヒアリの巣

調査と駆除→ヒアリ発見」のモグラたたきの負のスパイラルを脱却する方法を検討する段階に入っている。具体的な方法は化学的な防除だけに頼らない、ヒアリ独自のIPM手法を産官学で討議すべきで、これはPCOが設計すべきかと考えている。なお、その後、新たにアカカミアリのコロニーを確認(写真5)し、すぐに駆除作業を実施した。

2. 島嶼の有害生物調査(案)

前回の機関誌(機関誌No. 81；2021)で報告した某場所でのアリ調査に続き、東京都内で都民に害虫が住民に害を与える可能性の高い

写真5　新たに確認されたアカカミアリ
＜撮影：小松謙之＞

未調査場所を検討した。その結果、東京都内では特別区等ではかなりの情報が入るため調査の必要性は低いと判断し、長期的な計画として情報の少ない島嶼の調査を提案した。ただし、小笠原諸島は交通の便が悪いこと、文献を調べるとかなりの生物相の調査は行われているため、情報の少ない伊豆諸島に絞る調査案を提出した。

2−1. 伊豆諸島の害虫基礎調査

1）研究目的

伊豆諸島は、太平洋に連なる東京都の島嶼部である(図1)。南方の島は常春と呼ばれる気候条件にあり人気の観光地である。しかし、

図1　東京都の島嶼部

伊豆諸島では、甲虫類やトンボ類など特定の昆虫類の調査記録はあるが、害虫類に関しては研究が進んでいない。特にゴキブリ類は過去に統一的な調査がされておらず、また、近年外来アリの侵入が問題となっているが、辻井・寺山(2014)以降統一的な調査は行われていない。また、マダニ類や蚊類等衛生害虫に関しても近年は調査が行われていない。そこで、今後の研究の基礎とする目的で伊豆諸島有人島9島の調査を実施したいと考えている。

2) 本事業の特色・独創的な点

害虫に関して熟知した東京都ペストコントロール協会に所属する各専門分野の技術委員が調査にあたる。その結果は、学会などに報告し報文として残す。

3) 期待される効果

東京都島嶼部の害虫調査の基礎を作る。また、それを発表することにより、都民に関心を持ってもらうと同時に、東京都の教育機関による継続調査が行われやすい環境を作る。

2−2. 研究計画・方法

工程：原則は各社の業務に支障の少ない土日を選び、現地1泊2日で行う。

時期：各島1回のみ、5月、10月の年2回を予定。

調査範囲：各島内の集落内、車で移動できる道路沿い、観光名所など人が集まる場所。

1) 人員：4名1チームでレンタカーを借り、移動しながら調査を行う。

2) 調査方法：

・ゴキブリ類・アリ類：粘着式・ピットホールトラップを設置し、翌日回収する。また、その際目視にて石の裏や枯葉の下などを調査し拾い取りする。

・アリ類：スナック菓子を設置し、1～2時間後にそれに誘引されたアリ類を捕獲する。

・マダニ類：旗ずり法(フランネル法)にて一定時間採集を行う。

・カ類：人囮法を使用。

・屋内塵性ダニ：掃除機により採集。

3) 調査予定地

・2022年度　八丈島　三宅島

・2023年度　御蔵島　神津島

・2024年度　利島　大島

・2025年度　新島　式根島

・2026年度　青ヶ島

4) その他

必要に応じて各管轄行政に調査申請書を提出する。

3. IPM維持管理要領の見直し

本件は日本ペストコントロール協会と歩調を合わせて検討している。まずは協会員に現状での利用、不具合などアンケートをお願いし、その後検討に入る予定である。さらに技術委員会では過去にゴキブリ指数が1以上では多いと感じ、それ以下だと多いイメージが無いと言う報告をした(伊藤ら、1994；元木ら、2004)。これは17～27年も前のことであり、現在ではこの指数は当てはまらない。改めて技術委員会で再検討をしたいと考えている。

4. 協会ホームページの害虫相談コーナーに「カビ」作成

渡邊賢太郎委員が担当して原稿を作成、麻布大学より写真を提供いただきホームページに掲載、都民や協会会員に利用していただくこととした。